一緒に考えました！島と私たちのこれから　2020年1月8日発行

大久野島未来づくり勉強会

2019年11月26日（火）10:30-14:30　休暇村大久野島

講演1：瀬戸内海国立公園と大久野島について

常冨 豊（環境省中国四国地方環境事務所　統括自然保護企画官）

- 瀬戸内海国立公園は、昭和9年に日本で最初に指定された国立公園の一つで、海域を含むと日本最大の国立公園である。
- 大久野島の入込観光客数は平成21年の約13万人から徐々に増加し、平成29年がピークで約36万人であった。
- ウサギの最近の個体数（推定値）は平成18年が300羽で、平成30年は920羽以上という調査結果がある。
- 大久野島の抱える課題を把握するため、ウサギの個体数・健康状態などの現状調査を行い、「課題・問題や関係者が多様であり個別では解決できない」「島内のみでは対応できない」「来島者への働きかけが必要」なことがわかり、関係者が協働することによって、より幅広い取組につなげたいという趣旨で、この未来づくりワークショップがスタートしたとの経緯を説明。

講演2：野生化したカイウサギの生態や問題

山田 文雄（国立研究開発法人・森林総合研究所・非常勤研究員）

- 大久野島の野生化カイウサギは、もともとはペット動物由来で、本来は人の家屋や飼育施設で飼育されるべきウサギである。カイウサギは、ヨーロッパのイベリア半島で主に生息していた野生種ヨーロッパアナウサギを家畜化したもので他に、アナウサギ、イエウサギとも呼ばれる。
- 世界的には、野生化カイウサギ（野生種の人為導入）の問題は古くから起きている。
- 野生化カイウサギ(アナウサギ)は、国際自然保護連合(IUCN)で「侵略的外来種」に指定され、環境省が平成27年に公表した「生態系被害防止外来種リスト」において「重点対策外来種」と掲載された外来生物である。
- 大久野島の野生化カイウサギは、近年の観光客の増加に伴い、餌付け(人為的餌補給)によって、生息数は大幅に増加し、ウサギ自体に対しての影響や島の自然環境に対しての影響、さらには人への影響などが懸念される事態になってきている。
- 餌付けや個体群の適正管理など、実態の把握や理解を深めながらの対応が求められる。
- 大久野島未来作りワークショップは島や島のウサギに関わる関係者、また関心を持つ人々との合意形成の仕組みづくりなど、これまでにない新たな取り組みである。
- 大久野島の未来像について、「生態系を基軸とした社会の実現」（環境基本法，SDGsなどから）を図っていくことを提案

講演3：近代以降の大久野島の歴史の概説

山内 正之（大久野島から平和と環境を考える会 代表、毒ガス島歴史研究所 事務局長）

- 長年にわたり大久野島の毒ガス加害・被害の事実を伝える活動をしている。
- 日露戦争・第二次世界大戦・朝鮮戦争と三度も戦争に使用された島は日本では珍しい。
- 島全体が地図から消された秘密の毒ガス工場だった。
- 15年間で合計6,616トンの毒ガス剤を製造し、それは何千万人もの人間を殺戮できる量だった。
- 島全体が毒ガスで汚染されていたため、島内どこにいても毒ガス被害を受けた。工場で働いていた子どもたちも毒ガス被害を受け、戦後も毒ガス傷害の後遺症で苦しんでいる。
- 毒ガス傷害は完治することなく、死ぬまで後遺症で苦しむ。現在でも約1,300人が苦しんでいる。
- 大久野島に残る毒ガス工場時代の遺跡の保存の努力が続けられてきた。
- 昭和63年4月に大久野島毒ガス資料館が開館してから、多くの学校が平和学習のために訪れるようになった。
  大久野島の戦争の歴史を消し去ってはいけない。世界に発信していかなくてはならない。

講演4：大久野島の現状把握調査の結果報告

岡部 佳容（環境省中国四国地方環境事務所 国立公園課（野生生物課併任）自然保護官）

- 平成30年度に実施した大久野島の現状把握調査結果をグラフや資料を使っての報告があった。
- カイウサギの個体数調査は、目視で最大921羽を確認。確認できなかった個体を含めると、1,000羽以上生息している可能性があるとの見解。
- カイウサギの健康状態調査では、専門家の協力を得て60個体を捕獲し、このうち、外見の異常が認められたのは14個体であった。
- ウサギの保有するウイルス・細菌類の調査報告。
  - E型肝炎ウイルス：捕獲個体の約33％から検出。人での発症が報告されている。
  - トレポネーマ（ウサギ梅毒）：捕獲個体の約74％から検出。人獣共通感染症ではないが、ウサギ間では接触などにより広がることから、生息密度の上昇が蔓延を助長する可能性がある。
  - パスツレラ菌：捕獲個体の約17％から検出。人獣共通感染症で、接触により人にも感染するリスクがある。
- 感染症媒介動物の生息状況調査を実施（マダニ・ネズミ・蚊）
- 専門家・関係者へのヒアリングを実施
- 来島者アンケートでは、来島目的、感想、ウサギへのエサやりに関する意識等を聞き取った回答（260件）を見ると、ルール・マナーに関することや、ウサギの状態に関心が寄せられていることが示された。